

令和7年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会
胃がん部会 概要

- 1 日 時：令和7年12月9日（火） 15：30～17：00
- 2 場 所：オンライン
- 3 出席者

	氏名	所属
委員	清水 雅仁	岐阜大学大学院医学系研究科 消化器病態学 教授
	富松 英人	岐阜赤十字病院 放射線科 部長
	鳥澤 英紀	県医師会 副会長
	末次 かな子	ぎふ総合健診センター
	平野 沙桜里	市町村保健活動推進協議会保健師部会（北方町）
事務局	小山 貴広	保健医療課長
	丹羽 員代	健康推進室長
	横山 ひろみ	主幹兼係長
	内田 理映子	技術主査
	西川 真太郎	技師

4 議題

- (1) 令和6年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会胃がん部会議事報告
- (2) 岐阜県のがんの現状
- (3) 市町村が実施する対策型検診
- (4) 岐阜県精度管理体制の見直し
- (5) 胃内視鏡検診運営委員会（報告）

5 議事概要

【2 岐阜県のがんの現状】

- ・岐阜県の胃がんの年齢調整死亡率は、全国値よりも高い値で推移していたが、令和5年から全国と同程度になってきている。
- ・特に女性の年齢調整死亡率が令和5年から減少している。理由は明確ではないが、胃がん検診の受診率が増加してきたこと、罹患率が減少してきたこと、内視鏡検査等により早期の胃がん発見・治療ができるようになってきたこと等によると推測される。
- ・胃がんの年齢調整罹患率は、全国よりも高い値で推移しているが、減少傾向にある。
- ・地域保健・健康増進事業報告による胃がん検診の受診率は、増加傾向にあるが、受診率

の向上のために、さらに取組み・啓発を続けていく必要がある。

【3 市町村が実施する対策型検診】

- ・胃内視鏡検査を実施する市町村は増加傾向にあり、令和7年度は県内の約75%の市町村が実施している。
- ・胃内視鏡検査を実施していない市町村に対しては、受け入れる医療機関側のキャパシティに限りがあることなどの市町村ごとの事情・課題を把握し、実施市町村の好事例を情報提供する等、指導・助言をしていくことが必要である。
- ・指針に基づかないABC検診やヘリコバクターピロリ抗体検査を実施している市町村があるが、胃がん検診と同時受診が可能であり、胃がん検診を妨げるものではない。
- ・市町村、検診機関のチェックリスト及びプロセス指標の改善に向けて、市町村から積極的に検診機関へ働きかけを行うこと、保健所が実施するヒアリング等によって得た県内市町村の好事例について水平展開をしていくことが必要である。

【4 岐阜県精度管理体制の見直し】

- ・市町村がん検診のプロセス指標については、国の地域保健・健康増進事業報告で把握が可能であるため、岐阜県がん検診結果報告を廃止する。なお、国の地域保健・健康増進事業報告のとりまとめ、市町村への還元は部会事業として継続する。
- ・岐阜県技術的指針は、国指針と同様の内容のため廃止する。市町村には、引き続き国指針に基づきがん検診を実施すること、またがん検診実施に係る様式については、国立がん研究センターが定める検診様式等を活用するよう周知する。受診票については、国様式が存在しないため、がん部会で様式例を作成し周知する。
- ・がん検診不適正事例及び偶発症等について、事務対応要領を定め、集約した事例は部会に報告後、部会の助言事項を踏まえ、原則年1回市町村に通知する仕組みとする。事例の共有を通じて、検診の安全性確保の重要性を認識し、がん検診の適正な運営と質の向上を図る。

【5 胃内視鏡検診運営委員会（報告）】

- ・胃内視鏡検診運営委員会が未設置の市町村がある。
- ・小規模な市町村が単独で委員会を設置するのは負担が大きいといった意見がある。
- ・県として、運営委員会を設置できていない市町村に対して好事例の展開等、助言を行う。

⇒上記協議結果について、市町村及び検診機関に周知を行い、精度向上に向けた取組みを促していく。